

防衛庁航空自衛隊向け  
管制塔システム

## タワー・コンソール装置

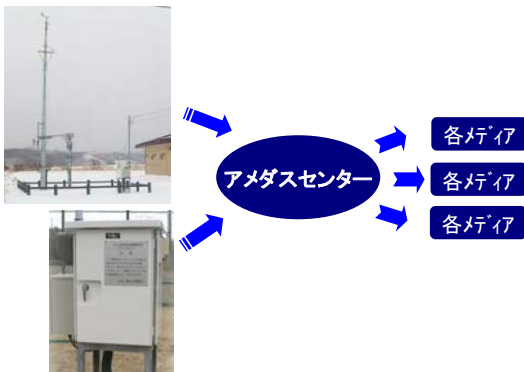
防衛庁航空自衛隊は、国の防衛と空の安全という非常に重要な任務に就いています。そのような中で、管制塔におけるシステムは機能的、且つ高信頼性が要求されます。明星電気における航空管制システムのラインナップの一つである、タワー・コンソール装置は不測の事態等におけるシステム機能喪失時でも、システムをバイパスし管制機能を継続して維持し、運用可能なものとなっています。

『空の安全』というキーワードを合言葉に、明星電気はこれからも航空管制システムの進展を目指していきます。



## 気象庁”緊急地震速報”に用いられる明星の地震計

来年秋から一般にも開放される緊急地震速報。高い信頼性を誇る明星の地震計が、気象庁により全国約200箇所に展開されており、緊急地震速報を生成するために用いられています。ナウキャスト地震情報対応計測震度計S-100はシンプルなデザインの処理部と防滴ケースの計測部から成っています。この地震計は、従来の単純な地震計と異なりP波を検出すると同時にS波到達までの時間と大きさを推定し警報を出します。最大の特徴は、新幹線沿線に設置しても地震と鉄道の振動を識別する能力の高さで、小さな地震のS波をP波と間違えて誤報を出すことが大きく減少しました。生産プラントにおいても、巨大な揺れが来る前に制御可能で、従業員の命を守り、地震被害を少しでも減らすことができるようになります。



## JMA-O4型有線ロボット気象計

アメダス (Automated Meteorological Data Acquisition System) データの基となる気象データを収集する本機材は、気象庁の新型アメダス端末として風向、風速、日照、温度、雨量、積雪の気象観測を行っており、約550箇所の設置に向け順次導入されています。

収集される気象データは、気象庁の管理の下、アメダスセンターに伝送され、メディアを通して皆さんにお伝えすることにより気象災害防止の軽減に貢献しています。

## ロケット打ち上げ時に行う高層気象観測

ロケット打ち上げ時には正確な高層気象の観測が不可欠です。種子島宇宙センターでは、打ち上げ時支援作業として、観測機器(ゾンデ)のついた大型の風船を上げることにより、およそ20キロメートルの射場上空の風向、風速、温度、湿度、気圧などの高層気象観測を行っています。この観測は打ち上げ12時間前から直前まで10数回行われます。

明星の観測機器によって得られた高層気象データが、ロケットの飛行安全や飛行プログラムの設定に役立てられます。



FROM UNDERWATER TO OUTERSPACE

明星電気は先端技術を活かし、～水中から宇宙まで～をテーマに  
人と社会の豊かな未来づくりを目指す世界の総合環境観測システムメーカーです。